

弥生時代の考古学

全9巻

同成社刊

内容見本



弥生時代の考古学 3

多様化する弥生文化

最新の年代観に基づく斬新な弥生時代像を提示。

今後の弥生時代研究の指標となる論考の数々を掲載。

多様化する弥生文化

設楽 博己
藤尾 慎一郎 編
松本 武彦

同成社

刊行開始予定
2008年5月

『弥生時代の考古学』全9巻 全体の構成

- 第1巻 弥生文化の輪郭
- 第2巻 弥生文化誕生
- 第3巻 多様化する弥生文化
- 第4巻 古墳時代への胎動
- 第5巻 食糧の獲得と生産
- 第6巻 弥生社会のハードウェア
- 第7巻 儀礼と権力
- 第8巻 集落からよむ弥生社会
- 第9巻 弥生研究のあゆみと行方

本書の特徴

- 新進気鋭の編者が人類史の中の弥生文化像を追究。
- 比較考古学の視点を重視し、学際的研究成果を収録。
- 弥生時代各段階の特徴を把握し、連続性を検証する。
- 若い世代の意欲的な研究成果を集結し、研究史とともに今後の研究展望を探る。
- 豊富な図版と写真によるわかりやすい紙面構成。

本書の体裁

B5判 並製 箱入
各巻平均250頁
価格/平均5,000円(税別・予価) 隔月刊行・刊行順不同

同成社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-4-8 東京中央ビル
電話03-3239-1467 FAX03-3239-1466 振替00140-0-20618



キリトリ線

注文書	同成社刊 弥生時代の考古学	株式会社 六一書房 〒102-0051 東京都千代田区神田神保町2-2-22 TEL (03) 5213-6161 FAX (03) 5213-6160	ご氏名
	全9巻 セット(分売可)		〒102-0051 東京都千代田区神田神保町2-2-22 住所
	弥生時代の考古学	店	TEL.
	第 巻 冊		ご所属

『弥生時代の考古学』全9巻の内容

第1巻 弥生文化の輪郭

藤尾慎一郎 編

総論 弥生文化とは何か 国立歴史民俗博物館 藤尾慎一郎

1 世界との比較

①農耕起源地としての長江文明と弥生文化

金沢大学 中村慎一

②直接伝播地としての韓半島農耕文化と弥生文化

九州大学 宮本一夫

③沿海州の農耕・金属器文化と弥生文化

東北芸術工科大学 福田正宏

④インドシナ半島の農耕・金属器文化と弥生文化

昭和女子大学 菊池誠一

⑤バルト海沿岸の農耕化過程と弥生文化—エテポレ文化を中心—

国立歴史民俗博物館 藤尾慎一郎

⑥メソアメリカの農耕化過程

茨城大学 青山和夫

2 日本列島の他文化との比較

①縄文文化と弥生文化 (財)北海道埋蔵文化財センター 鈴木 信

②後期貝塚文化と弥生文化 鹿児島大学 新里貴之

3 縄文・古墳文化との比較

①縄文文化と弥生文化 島根大学 山田康弘

②弥生文化と古墳文化 専修大学 土生田純之

4 弥生時代の年代論

①従来の弥生年代観ができる経緯と考古学的にいえること

国際日本文化研究センター 宇野隆夫

②炭素14年代を使った弥生集団論

国立歴史民俗博物館 小林謙一

③日本産樹木年輪中の炭素14からみる弥生時代

国立歴史民俗博物館研究員 尾寄大真

5 年代論のゆくえ 座談会

明治大学 石川日出志

大分県立歴史博物館 高橋 徹

奈良文化財研究所 深澤芳樹

第2巻 弥生文化誕生

藤尾慎一郎 編

総論 縄文から弥生へ・弥生前史

国立歴史民俗博物館 藤尾慎一郎

1 弥生文化成立期の自然環境

①弥生成立期の地理的景観—佐賀県唐津市唐津平野にみる初期農耕集落の出現と拡大

佐賀県教育委員会 小松 謙

唐津市教育委員会 美浦雄二

②弥生成立期の植生と人工改変

東京大学 辻誠一郎

③炭素14年代較正曲線を用いた環境変動の復元と歴史変遷への接近—弥生成立期—

国立歴史民俗博物館 今村峯雄

国立歴史民俗博物館 藤尾慎一郎

2 文明との接触

①前10世紀前後の遼東・遼西

国立歴史民俗博物館研究員 石川岳彦

②韓半島無文土器文化が弥生文化成立に果たした役割

東国大校 安 在皓

3 各地における弥生文化の成立と拡散

①縄文後・晩期土器と板付 I 式土器

鹿児島県立歴史資料センター黎明館 東 和幸

②板付 I 式を創ろうとした村、創れた村、創れなかった村

国立歴史民俗博物館 藤尾慎一郎

③福岡平野における板付 I 式土器の拡散と突帯文系甕の成立

福岡市教育委員会 菅波正人

④西日本における遠賀川系土器の成立と西からの影響

田原本町教育委員会 豆谷和之

⑤東日本における農耕文化の始まりをどう捉えるか

浜松市役所 佐藤由紀男

4 弥生土器成立の諸相

①櫛目文土器との関係 巻枝市教育委員会 田中聡一

②無文土器と弥生土器 東京大学院生 庄田慎矢

奈良文化財研究所 深澤芳樹

③大洞系土器との関係 駒澤大学 設楽博己

④在来人と渡来人 福岡女子短期大学 中島達也

第3巻 多様化する弥生文化

設楽博己 編

総論 真正弥生文化の世界 駒澤大学 設楽博己

1 弥生中期の自然環境

①土地環境の変化 (財)大阪府文化財センター 井上智博

②気候温暖化と水田稲作の拡大 東京大学 辻誠一郎

③炭素14年代較正曲線を用いた環境変動の復元と歴史変遷への接近—弥生中期—

国立歴史民俗博物館 今村峯雄

駒澤大学 設楽博己

2 膨張する集落

①巨大環壕集落の成長とそれを支えたシステム

徳島文理大学 大久保徹也

②中期巨大環壕集落の都市的様相—文明圏の都市と比較して—

金沢大学 中村慎一

③関東地方における巨大農耕集落の出現とその背景

明治大学 石川日出志

④東北部の農耕文化をどのようにとらえるか

明治大学 高瀬克範

3 中期農耕集落の衰退と分裂

①倭国内の生産流通機構とその変化 大阪大学 寺前直人

②高地性集落ともうひとつの倭国乱 岡山大学 松木武彦

③畿内弥生社会における首長の役割とその変化 (財)大阪府文化財センター 秋山浩三

④列島内各地における中期と後期の断絶

芦屋市教育委員会 森岡秀人

4 冊封体制への歩み

①青銅器と鉄器普及の歴史的背景

国立歴史民俗博物館研究員 石川岳彦

②甕棺と副葬品の変貌 福岡市教育委員会 常松幹雄

③金印と冊封体制 埼玉大学 初山 明

第4巻 古墳時代への胎動

松木武彦 編

総論 弥生から古墳へ 岡山大学 松木武彦

1 弥生後期の自然環境 (気候変動と集落の盛衰)

①花粉分析からみた弥生後期の気候寒冷化の実態

奈良教育大学 金原正明

②炭素14年代較正曲線を用いた環境変動の復元と歴史変遷への接近—弥生から古墳へ—

国立歴史民俗博物館 今村峯雄

岡山大学 松木武彦

2 文明世界への登場

①帯方郡との関係 埼玉大学 高久健二

②鉄器の問題 愛媛大学 村上恭通

③墳丘墓 岡山大学 松木武彦

④文献からみた政治史 滋賀県立大学 田中俊明

3 物質文化の変化

①弥生後期土器の展開 奈良県教育委員会 川上洋一

②青銅器の発達と終焉 山口市教育委員会 北島大輔

③青銅鏡の展開 国立歴史民俗博物館 上野祥史

④石製品から鉄製品へ 岡山大学 松木武彦

⑤服飾と威儀具の変化、象徴表現と芸術

熊本大学 木下尚子

4 墓制と集落の展開

①墓群構造の変化、墳丘墓の展開

島根大学ミュージアム 会下和宏

②集落空間の変化、集落フォーメーションの展開

福岡市教育委員会 久住猛雄

第5巻 食糧の獲得と生産

設楽博己 編

総論 食糧生産の本格化と食糧獲得技術の伝統

1 農耕の弥生文化的特質

①弥生農耕の特質 慶應義塾大学 安藤広道

②朝鮮半島・東北アジアの初期農耕と弥生農耕

東京大学院生 庄田慎矢

③中国新石器文化の農耕と弥生農耕

駒澤大学 小柳美樹

④西アジア新石器文化の農耕と弥生農耕

筑波大学 常木 晃

⑤農耕と文明の相関関係 国立歴史民俗博物館 篠原 徹

2 家畜飼育の評価

①弥生文化の家畜飼育 名古屋大学 新美倫子

②DNA分析による弥生ブタ問題 岐阜大学 石黒直隆

③狩猟犬から食用犬へ 東海大学 内山幸子

④中国ブタ便所からみた弥生文化の家畜飼育

国立歴史民俗博物館 西谷 大

⑤西アジアの牧畜からみた弥生文化の家畜飼育

筑波大学 三宅 裕

3 生業の伝統と変容

①洞窟に暮らす人々 九州保健福祉大学 山内利秋

②海人の性格—アワビオコシと銚頭—

國學院大學栃木短期大学 小林青樹

③縄文文化的漁撈活動と弥生文化的漁撈活動

早稲田大学 樋泉岳二

④縄文文化的貝塚はなぜ消滅したのか

明治大学 阿部芳郎

⑤弥生時代の雑穀栽培と木の実食の評価

明治大学 高瀬克範

⑥縄文農耕論をめぐって 長崎県企画局 中沢道彦

第6巻 弥生社会のハードウェア

松木武彦 編

総論 弥生時代の技術・経済・社会 岡山大学 松木武彦

1 生活・生産・流通

①土器の技術 北陸学院大学 小林正史

②石器の製作と使用 文化庁 瀬戸田佳男

③鉄器の生産と流通 広島大学 野島 永

④青銅器の形態と技術 愛媛大学 吉田 広

⑤木製農具と耕作の技術

愛知県埋蔵文化財センター 樋上 昇

⑥製 塩 愛知県埋蔵文化財センター 永井宏幸

⑦玉生産と流通 (財)大阪府文化財センター 廣瀬時習

⑧奢侈品の生産と流通 大阪府教育委員会 小山田宏一

⑨交通と運輸の技術 国際日本文化研究センター 宇野隆夫

⑩居住の技術 鳥取環境大学 浅川滋男

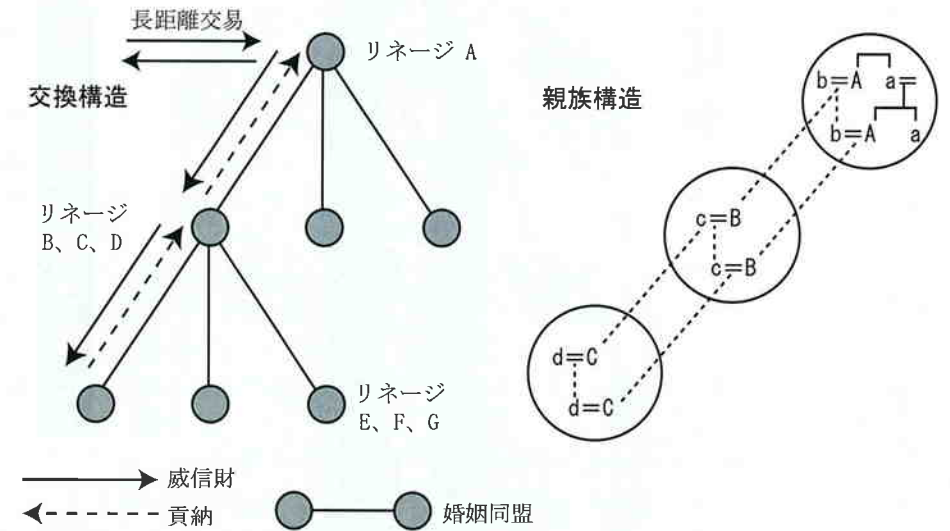


図1 威信財システムのモデル (Ekholm 1977, Friedman and Rawlands 1977より)

ルー (1969) は、エーゲ海の都市国家の発展について、遠距離交易の急激な増大が新たな富や職業専門化、軍事力強化をもたらし、それが集落間のコミュニケーションを増大させたと評価する。また中部ミシシッピ文化のマウンドヴィル遺跡の分析では、墓地の副葬品において階層性が認められ、銅製品や海産貝などの外来品を高位首長が独占入手し、それを地方首長に再分配している様子から、威信財システムにもとづく首長制社会が想定される。そしてこのような威信財システムはマウンドヴィル I 期当初より認められ、社会階層化は II・III 期へとさらに進展するという (中村 1995)。日本の考古学で威信財が語られる場合も、多くの文脈では社会の発展を示す指標とされることが多いように見受けられる。

しかしフリードマンは、交易が増加し威信財システムが発達しすぎると、かえって社会の階層性が低下するというモデルを提示している。西ポリネシアでみとめられるような威信財システムは、交易が増加することにより威信財の流入量が増加するため、首長による威信財の独占体制が崩れ、再分配システムが立ち行かなくなる。代わって、野心的な実力者が自らの威信をかけて競争的な祝宴や交易活動をおこなうビッグマン社会になる。一方、交易が減少すると、威信財システムに代わって、地位競争による戦争や首長の宗教的権威の強化によって社会秩序の再生産がおこなわれるようになる。そして、ハワイやタヒチなどの島では面積・人口ともに大きく高い生産力を有するため、高度な階層化社会の達成に成功したが、イースター島のように面積・人口に乏しく生産力の低い島では、戦争やモアイの建造などで社会・環境ともに疲弊し、安定した社会を築くことができなかったのだという (Friedman 1982)。

新進化主義以降の首長制研究においても、首長制社会のバリエーションおよび社会の多系的な進化に理解の重点を置いた研究が進展してきた。たとえばカーチ (1984) は、トンガ・ハワイ・イースター島というオセアニアの三つの首長制社会を比較するうえで、共通した起源の祖社会 (ラピタ文化に起源する祖ポリネシア社会) から環境への適応の差異によって各社会が派生していく様子

2 墓と階層

①九州	鹿児島国際大学	中園 聡
②中・四国	赤磐市教育委員会	宇垣匡雅
③近畿	九州国立博物館	河野一隆
④東海・中部・関東	南山大学	黒沢 浩
⑤縄文文化	旭川市博物館	瀬川拓郎

3 競争と支配の戦略

①弥生時代の武器と戦闘の技術	(財)松江市教育文化振興財団	藤原 哲
②防塞的集落の展開と機能	鳥取県教育委員会	濱田竜彦
③武威と社会形成	大阪大学	寺前直人

②集落と集団2—近畿—	同志社大学歴史資料館	若林邦彦
③ボビュレイション流動と社会変化	慶應義塾大学	安藤広道
④弥生社会の組織とカテゴリー	九州大学	溝口孝司
⑤GISを用いた弥生集団論	同志社大学	津村宏臣
⑥墓と人骨	鳥根大学	山田康弘

2 弥生集落の諸相

①仙台平野	仙台市教育委員会	斎野裕彦
②長野盆地 松原遺跡	国立歴史民俗博物館	馬場伸一郎
③静岡平野 登呂遺跡	静岡県教育委員会	岡村 渉
④伊勢湾沿岸	愛知県埋蔵文化財センター	石黒立人
⑤金沢平野 八日市地方遺跡	(財)石川県埋蔵文化財センター	安 英樹
⑥奈良盆地 唐古・鍵遺跡	田原本町教育委員会	豆谷和之
⑦松山平野 文京遺跡	愛媛県埋蔵文化財センター	柴田昌児
⑧福岡平野 比恵・那珂遺跡群	福岡市教育委員会	久住猛雄

第7巻 儀礼と権力 設楽博己 編

総論 弥生時代の儀礼の諸相 駒澤大学 設楽博己

1 暮らしの中の儀礼

①水と井戸の祭り	同志社大学	辰巳和弘
②盾と戈をもちいた儀礼	國學院大学栃木短期大学	小林青樹
③装身とその儀礼的性格	駒澤大学	設楽博己
④婚姻と儀礼	明治大学	高瀬克範
⑤方形周溝墓の葬送儀礼	(財)大阪市文化財協会	大庭重信
⑥再葬の儀礼	明治大学	石川日出志

2 儀礼と政治・権力構造

①青銅祭器の対立構造	愛媛大学	吉田 広
	鳥根県古代文化センター	増田浩太
	中央大学大学院	山口欧志
②青銅鏡の政治性萌芽	大阪大学	福永伸哉
③威信財交換と儀礼	奈良文化財研究所	石村 智
④宗教王としての卑弥呼	国立歴史民俗博物館	仁藤敦史
⑤中国の王権儀礼と弥生文化	日本中国考古学会	今村佳子

3 変容する儀礼

①男女関係の変化とその背景	岡山大学	松本直子
②祖先祭祀の変容	國學院大学	谷口康浩
③儀礼の場としての墳丘墓と古墳	徳島文理大学	大久保徹也
④弥生文化と記紀神話	国際日本文化研究センター	磯前順一

第8巻 集落からよむ弥生社会 松木武彦 編

総論 弥生時代の集落と集団 岡山大学 松木武彦

1 弥生集団論の新展開

①集落と集団1—九州—	福岡県教育庁	小澤佳憲
-------------	--------	------

第9巻 弥生研究のあゆみと行方 藤尾慎一郎 編

総論 稲・鉄史観成立の検証と研究の行方 駒澤大学 設楽博己

	国立歴史民俗博物館	藤尾慎一郎
	岡山大学	松木武彦

1 研究のあゆみ

①乙益重隆	琉球大学	池田榮史
②伊東信雄	北陸学院短期大学	小林正史
③小林行雄の土器様式論	奈良文化財研究所	深澤芳樹
④岡崎敬と弥生文化研究	大分県立歴史博物館	高橋 徹
⑤森貞次郎と弥生文化研究	福岡大学	武末純一
⑥佐原真—銅鐸、戦争	東京国立博物館	井上洋一

2 研究の行方

①弥生鉄史観の検証と行方	国立歴史民俗博物館	藤尾慎一郎
②弥生集団論の検証と行方	鳥根大学	山田康弘
③国家形成論と弥生社会	東海大学	北條芳隆
④弥生社会の平等と不平等—縄文階層社会との比較—	北海道大学	小杉 康
	明治大学博物館	忽那敬三
⑤弥生人のライフプロセス	慶應義塾大学	安藤広道
⑥弥生的世界観の形成	岡山大学	松本直子
⑦認知考古学で解く弥生社会	岡山大学	光本 順
⑧弥生社会の新権力論	岡山大学	光本 順

(所属は2007年12月現在)